

薬を飲み忘れている

—短期記憶障害への対応

認知症

しち・はち・きゅう

7 8 9

試して

みんなで

学んで

薬を飲み忘れている

認太郎…主人公（認知症）



認太…息子

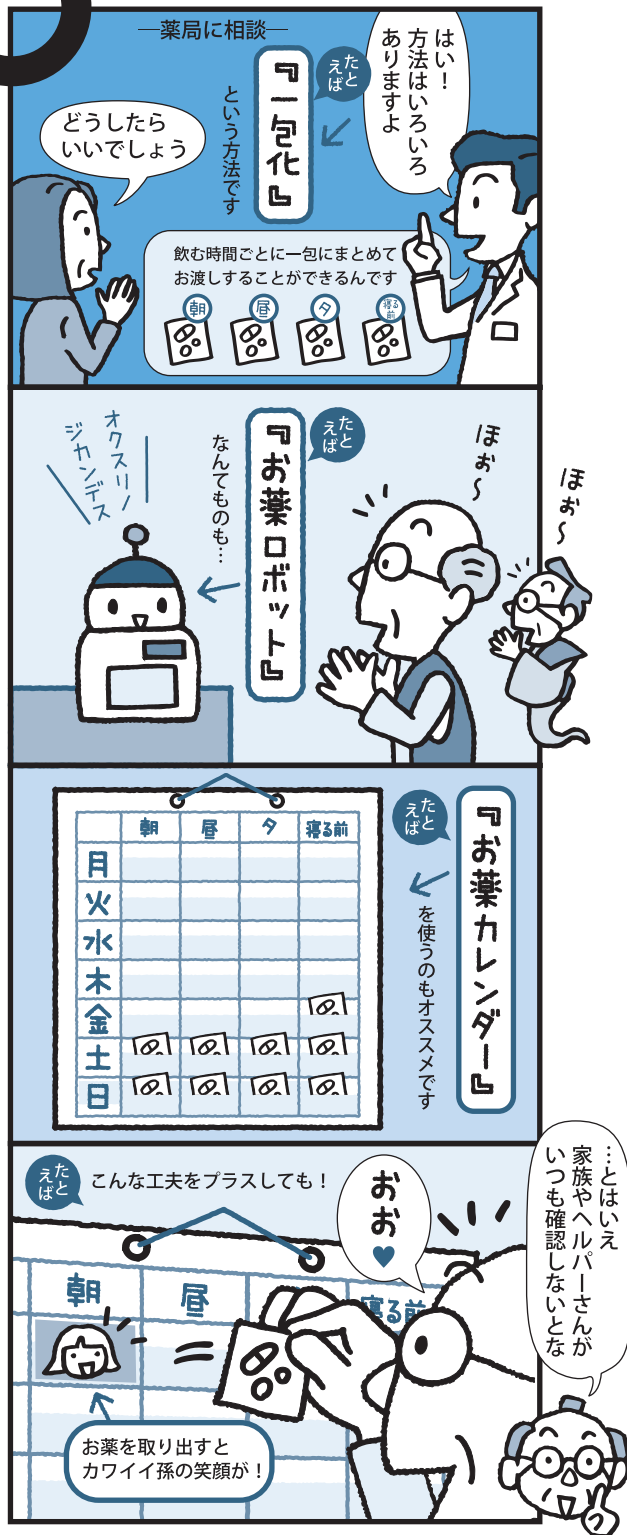


知子…嫁



認左衛門

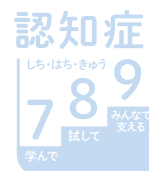
…認太郎一家のご先祖
守り神、お助けマン



*いつもうまくいくわけではありません。

薬を飲み忘れている

—短期記憶障害への対応



中核症状（必ず現れる症状）：短期記憶障害

記憶障害（すぐに忘れしまう）によって、薬を飲まなければならないことを忘れてしまい、気付いた時には大量に薬が余っているということがしばしば見受けられます。一方で、最初の頃は薬を飲まなければならないことは覚えていても、しだいに、服薬したこと自体を忘れてしまい、同じ薬を重複して飲んでしまう事も見られます。

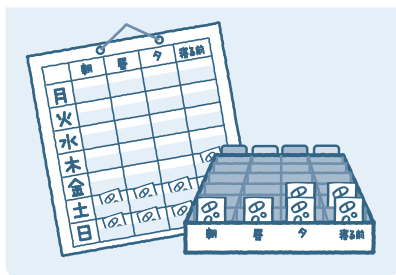
服薬には、処方通りに飲まないと相応の効果が出なかったり、副作用が強く出てしまったりというリスクが伴います。往々にして、何種類もの薬を処方されていることに起因することでもありますが、まずはやはり、飲み忘れを防ぐような工夫が必要です。ただ、認知症が進行しても「薬くらい自分で飲める」と思っている方もいるので、本人のプライドを傷つけないよう、さりげない手助けができるといいですね。

このケースのポイント

どうすればいい？

対応法 ①

「お薬カレンダー」や「服薬ボックス」を活用します。



対応法 ②

数や種類が多い場合には「一包化」して、管理や服用をしやすくします。



対応法 ③

薬を飲んだことを忘れないように、飲み終わった空の袋をしばらくテーブルに置いておき、本人が確認できるようにします。



短期記憶障害とは脳の「海馬」という部分が障害されることにより症状がでます。新しいことを覚えにくくなるのはそのためで、進行すると記憶をとどめておける時間が数分にも満たない状況になります。認知症初期には比較的直近の記憶から失われるため、ついさっきのことも思い出せなくなり、進行すると次第に昔のことも思い出せなくなります。

記憶障害のある方は、本人には薬を飲み忘れたとの自覚がありません。そのためまずは、薬を飲み忘れたことに本人が自分で気付けるような支援ができればよいと思います。それが難しい場合には、家族の方が食後のタイミングをみて本人に電話で服薬を促したり、また、介護保険のサービスを上手に利用して、訪問薬剤師、訪問看護師、ヘルパーを利用する、あるいはデイサービスで飲ませてもらう、といったことも可能です。

医師は、患者が指示通り薬が飲めていることを前提で診察、次回の処方を決めていきます。処方通りに飲めていないことに気付いた時は、必ず診察を受けた時に、医師にお伝えください。

—— 秋山クリニック 秋山 三郎（もの忘れ相談医）

医師からのアドバイス

